

山上に一服の涼

神戸・六甲山の展望台「六甲枝垂れ」で13日、冬場に貯蔵した氷を利用した「冷風体験」が始まった。

氷をためた氷室の扉が開かれ、ひんやりした空気が施設内の風室に流れ込んだ。暖冬や真夏日が続いた影響で氷は少なめというが、来場者は肌に心地よい天然の冷気を楽しんだ。

毎年1〜2月に、雨水をためた人工池に張った氷を切り出し、展望台内のヒノキ造りの氷室に貯蔵している。氷室は2室あり、合わせて32トンの氷を貯蔵できるが、今季は例年より2割ほど少ない16トしか切り出せず、さらに7月の暑さで少し目減りしているという。

氷室から冷風が送られる風室は、室温が常時20度ほどに保たれる。大阪市の女性会社員(31)は「湿気もなく、ずっとここにいたい」とほほえんだ。

神戸・六甲枝垂れ「氷室」開き冷風体験



冬場に貯蔵した氷の冷気で涼む来場者＝神戸市灘区六甲山町

この日は氷室の内部も特別公開され、立ち入った来場者は「涼しくて気持ちいい」と声を上げた。

風室は氷が溶けるまで利用でき、8月いっぱいの見込み。入場料300円、4歳〜小学生200円。六甲ガーデンテラス☎078・894・2281 (井上 駿)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① 記事で紹介されている「冷風体験」は、どこでできますか？

② 氷室の氷は、どのようにして作られ、貯蔵されているか、わかるところに、マーカーで印をつけましょう。

③ この記事を読んで思ったことなど、感想を書きましよう。

④ 先生や友だち、おうちの方に感想を書いてもらおう